

1. 調査報告概要表

作成日 平成19年 8月14日

【評価実施概要】

事業所番号	1072600453
法人名	株式会社 八洲
事業所名	グループホームやまゆりの家
所在地	群馬県吾妻郡東吾妻町大字原町5C(電 話)0279-76-4165
評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大友町2-29-5
訪問調査日	平成19年7月31日

【情報提供票より】平成19年7月14日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成)14 年 11 月 1 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18人 人
職員数	9 人 常勤6人 兼務2人 非常勤1人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨造り 2階建ての 1階 ~ 2階部分
------	-------------------------

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(7月14日現在)

利用者人数	18名	男性	7名	女性	11名
要介護1	3名	要介護2	2名		
要介護3	11名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2			
年齢	平均 82.3歳	最低	68歳	最高	90歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	田島病院 神辺歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営理念は「ここは家、その日、その日をその人らしく」を掲げて、理念に基づき自らの意思で利用者のペースで生活ができるように支援をしている。一日、笑顔で穏やかに過ごされている様子が感じられた。天候や利用者の状態、希望に応じて毎日散歩したり、2ヶ月に1度の小旅行などの計画があり、利用者の生活を楽しみのあるものとしている。
施設長・管理者・職員の異動があつて間もないが、職員全員で理念に基づき、より良い生活支援を目指し熱意を持って取り組んで行く姿勢が感じられた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)	入浴は、職員が一方的に決めず、利用者のその日の希望を聞いて支援している。研修は機会を作り参加しており、報告を行い共有をしている。地域の方にホーム便りを配布し、ホームの理解を得る広報活動をしている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)	サービス評価の意義や目的は全職員に伝えているが、自己評価は運営者、施設長、管理者で取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)	運営推進会議は開催されていない。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)	家族の来訪時に何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに配慮しており、出された意見や要望はミーティングで話し合い反映をさせている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)	ホーム便りを地域の方に配布する、地域との付き合いで手伝い(葬儀等)、利用者の友人の来訪や友人宅に行く等の交流をしている。地元の高校生にボランティアを依頼し、地域の祭りに行くなどもしている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ここは『家』、その日その日をその人らしく」と運営理念を掲げているが、地域密着型サービスを意識した理念の見直しをしていない。	<input type="radio"/>	地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、地域生活の継続支援と事業所と地域の関係性を謳った理念の見直しを話し合われてはどうか。
	2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員採用時には必ず理念を伝え、理解をしてもらうようにしている。また、日々の関わりの中や定例会議等で話し合い共有している。		
2. 地域との支えあい					
	5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム便りを地域の方に配布、地元の祭りに高校生ボランティアを依頼し参加する。散歩時には挨拶し交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	<input type="checkbox"/> 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を全職員に伝えているが、自己評価は運営者、施設長、管理者で取組まれた。		
	8	<input type="checkbox"/> 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は開催されていない。	<input type="radio"/>	運営推進会議は、外部の人々の目を通して事業所の取り組み内容や具体的な改善課題を話し合ったり、地域の理解と支援を得るための良い機会であるので、早めに開催できるように取り組んでほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	市町村窓口に対して、事業所の状況やケアサービスの取り組みを折りに触れ伝えている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	家族の来訪時には、日頃の暮らしぶりを報告している。定期的にホーム便りを発行し送っている。金銭面は立替方法をとっており、月1回報告をしている。		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	家族の来訪時には、何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに配慮しており、出された意見、要望等はミーティングで話し合い、反映をさせている。また、ホームの行事(運動会、敬老会等)は家族に呼びかけて参加をしてもらっている。		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	利用者、家族との信頼関係を築くためにも、馴染みの職員が対応することが重要と考えており、異動や離職がやむを得ない場合も、その時期や引継ぎの面に努力をし影響を最小にしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	研修にはなるべく多くの職員が受講できるようにし、研修後は報告を行い、職員間で共有するようにしている。		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	グループホーム連絡協議会に加入をしている。研修に参加したり、見学等を行うことで事業所以外の人と交流を図り、ケアに活かすようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームから事前訪問をしたり、見学をしてもらうなどを行っている。やむを得ずすぐに利用になった場合は、家族と相談し日中はホームで過ごしてもらい、夜間は自宅に戻るなど配慮して、安心感を持ってもらい安定した利用につなげるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	支援する側・支援される側という意識を持たずに、利用者と職員はお互いに協働しながら和やかに生活出来るよう場面づくりや声かけを行なっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で声を掛け、把握に努めて確認をするようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成担当者は、現場でケアを実施しているため、利用者の状態を把握している。また、家族からの意見や要望を聞き全職員で意見交換を行い、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態の変化で随時の見直しをしているが、利用者の状態が安定している場合は、見直し期間が6ヶ月となっている。	○	本人の状態の変化によって、現状と介護計画が合わない状況が起きがちです。介護計画の遂行状況、効果の評価を行い介護計画の見直しをする期間を検討する取り組みをしてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。また、受診や通院は本人や家族の希望に応じて対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化した場合はどう対応するのか、事業所が対応し得る説明を行い、家族との話し合いをしている。状態の変化に伴いその都度話し合いをして文章化している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入職時に、利用者一人ひとりの誇りを尊重し、プライバシーの確保について注意を払うことや個人情報保護法の理解に努め、守秘義務があること等を徹底して教育している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間以外は利用者一人ひとりの状態や思いに配慮しながら柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が同じテーブルを囲んで一緒に食事を味わう、という体制ではない。	○	利用者と職員が同じテーブルを囲んで食事を共にしながら、楽しく食事ができる雰囲気づくりの工夫の取り組みをしてほしい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員が一方的に決めず、利用者のその日の希望を聞いて支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食器洗い・モップ掛け・ごみ出し・お茶を入れること等に、利用者一人ひとりの力を発揮してもらえるようお願いをして、感謝の言葉を伝えている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や利用者の状態や希望に応じて、日常的に散歩やドライブに出かけるようにしている。また、2ヶ月に一度は小旅行(浅間方面、フラワパーク等)を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	事業所独自で火災防止規定を作成し、地元消防署に承認してもらっている。職員全員に周知している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック・記録し、職員は情報を共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールにはソファが置かれ、茶碗を洗う音、食事の準備の音や匂いが漂うなど、家庭的な環境の中で居心地よさそうに過ごされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者によっては、テレビや人形、ベッド、ポータブルトイレを持込んでいるが、利用者の馴染みの物が少ない居室となっている。	○	利用者の家族の事情で協力が得られない場合もあると思われるが、ホーム側で利用者の意向を確認しながら、その人らしく居心地のよい居室づくりに取り組んでほしい。